

下 鴨 城 跡

—河合神社境内—

2 0 1 5 年

古 代 文 化 調 査 会

例 言

1. 本書は、古代文化調査会が京都市左京区下鴨泉川町60番において、賀茂御祖神社による第3期整備事業による集合住宅建設に伴い実施した下鴨城跡（14S596）の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、古代文化調査会の家崎孝治が担当した。
3. 調査にあたっては、京都市文化市民局文化財保護課の指導を受けた。
4. 本書の編集・執筆は家崎がおこなった。
5. 図面整理及びトレースは山田学が、遺物実測は板谷桃代が担当した。
6. 本書で使用した方位及び座標の数値は世界測地系（新測地系）平面直角座標系VIによる。
7. 本書で使用した地図は、京都市都市計画局発行の2,500分の1の地図（相国寺）、国土地理院発行の25,000分の1の地図（京都東北部）を調整し、使用した。
8. 土壌及び土器・瓦類の色調の表記は農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』に準じた。
9. 遺構番号は実測図・写真ともに共通している。
10. 発掘調査及び遺物整理に際して、下記の方々の御指導・御協力を得ることができた。記して感謝の意を表します。（所属・敬称略、五十音順）

赤松佳奈 伊東義晃 伊東義通 家原圭太 馬瀬智光 奥井智子 梶川敏夫 木下保明
熊井亮介 熊谷舞子 黒須亜希子 小松武彦 鈴木久史 友田重臣 西森正晃
新田和央 狭間 崇 長谷川行孝 平尾政幸 堀 大輔 宮原健吾 吉崎 伸
(株)アクセス都市設計 (株)明輝建設 (株)大高建設 (公財)京都市埋蔵文化財研究所
(株)竹中工務店 JR西日本不動産開発(株) (株)藤田造園

本文目次

下鴨城跡

I 調査の経過	1
II 遺構	4
III 遺物	7
IV まとめ	10

図版目次

図版1	遺跡	旧大絵図
図版2	遺跡	A区遺構実測図
図版3	遺跡	A区北壁・西壁・南壁断面実測図
図版4	遺跡	B区遺構実測図
図版5	遺跡	B区北壁・南壁断面実測図
図版6	遺跡	C区遺構実測図
図版7	遺跡	C区北壁・西壁断面実測図
図版8	遺跡	C区溝38立面実測図
図版9	遺跡	1 A区調査区近景（北東から） 2 A区第1面全景（北東から）
図版10	遺跡	1 A区第2面全景（北東から） 2 A区溝5B（南から）
図版11	遺跡	1 A区拡張区全景（南東から） 2 A区溝6断面（南西から）
図版12	遺跡	1 B区調査地近景（南西から） 2 B区第1面全景（西から）
図版13	遺跡	1 B区東部斜面状況（南から） 2 B区井戸31検出状況（南から）
図版14	遺跡	1 B区井戸31（南から）

	2	B区井戸31（東から）
図版15 遺跡	1	B区井戸31断ち割り状況（南から）
	2	B区井戸31完掘状況（南から）
図版16 遺跡	1	C区調査地近景（南から）
	2	C区第1面全景（南から）
図版17 遺跡	1	C区溝38（南東から）
	2	C区集石遺構39（西から）
	3	C区集石遺構39断ち割り（東から）
	4	C区集石遺構40（西から）
	5	C区集石遺構40断ち割り（東から）
図版18 遺跡	1	C区拡張後全景（南から）
	2	C区溝38東護岸石北部（西から）
	3	C区溝38東護岸石南部（西から）
	4	C区溝38西護岸石裏込め状況（南西から）
	5	C区溝38断ち割り北断面（南から）
図版19 遺物	A区溝5 B・溝6・土壙3出土遺物	
図版20 遺物	B区井戸31・包含層・整地層3・C区集石遺構39・A区溝5 B出土遺物	

挿 図 目 次

図1	調査地点位置図	2
図2	調査地位置図	3
図3	調査区配置図	4
図4	B区井戸31実測図	5
図5	A区溝5 B・6出土遺物実測図	7
図6	A区土壙3出土遺物実測図	7
図7	B区井戸31・包含層出土遺物実測図	8
図8	C区溝38・集石遺構39出土遺物実測図	8
図9	軒瓦拓影・実測図	8
図10	井戸31と溝38の縦断面図	11

下 鴨 城 跡

I 調査の経過

調査に至る経緯

賀茂御祖神社境内は平成2年度より境内を1～5期に区分した整備事業を実施している。調査地は第3期整備区域の京都市左京区下鴨泉川町60番である。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地・下鴨城跡に当たる。第3期整備の一環とした集合住宅の工事に先立ち京都市文化財保護課が試掘調査を実施した。その結果、地表面より1.0m以下において平安時代の遺物包含層、江戸時代の溝跡等が良好な状態で遺存していることが判明した。京都市は試掘調査の結果をふまえ発掘調査の指導をおこない、当調査会と施主との協議の上、当調査会が発掘調査をおこなうことになった。調査は2015年8月より開始することとなった。

調査経過

当該地は、賀茂御祖神社境内に含まれるところで、御蔭通の南側に位置し、現在は駐車場及び資材置き場などとなっている。下鴨城（河合城）跡は永禄8年（1565）に賀茂御祖神社の第一摂社である河合神社境内域に築かれた城郭跡^{註1}である。その位置については「鴨川の出口に城を立つる事」（『室町殿日記』巻十）、「十乗坊、磯谷等鴨川の頭に一城を築きてたてこもり」（『陰徳太平記』巻三九）などの記述より、鴨川と高野川の合流地点付近に想定されているがその正確な位置については詳らかではない。また同じく『室町殿日記』に「多勢をよせ縄張をとって夜を日について普請しかば程なく造りおわりたりけり。かくて永原壱岐の守を城主として参百人この城を守らせける。」^{註2}とあり、城郭としての一定の規模とそれなりの体裁を整えていたことがうかがえるだけで、その実体についてもほとんど不明なままである。

調査対象地は9,640m²程の広さがあるが、試掘調査をおこなった結果、昭和36年頃より神社の収益事業として土地貸をしていたゴルフ練習場建設に伴い広範囲にわたって破損されていることが判明し、当初の調査対象地は520m²程であったが、調査をおこなう段階になって樹木の保存移植に伴う調査区の減少が生じ、結果としてA調査区（80.8m²）、B調査区（254.88m²）、C調査区（94.5m²）の三カ所の計430.18m²となった。

調査は8月3日から南辺部に位置するA区より開始し、A区の調査を終えたのち北西部のB区、北東部のC区の調査を並行しておこなった。当初、遺構番号は各区ごとに1番から付与したが、遺構総数が限られていたため、報告書作成の段階でA区からC区までの通し番号に変更した。すべての調査は10月13日に終了した。

調査の方法としては、（公財）京都市埋蔵文化財研究所が作成した平面直角座標系VIによる平

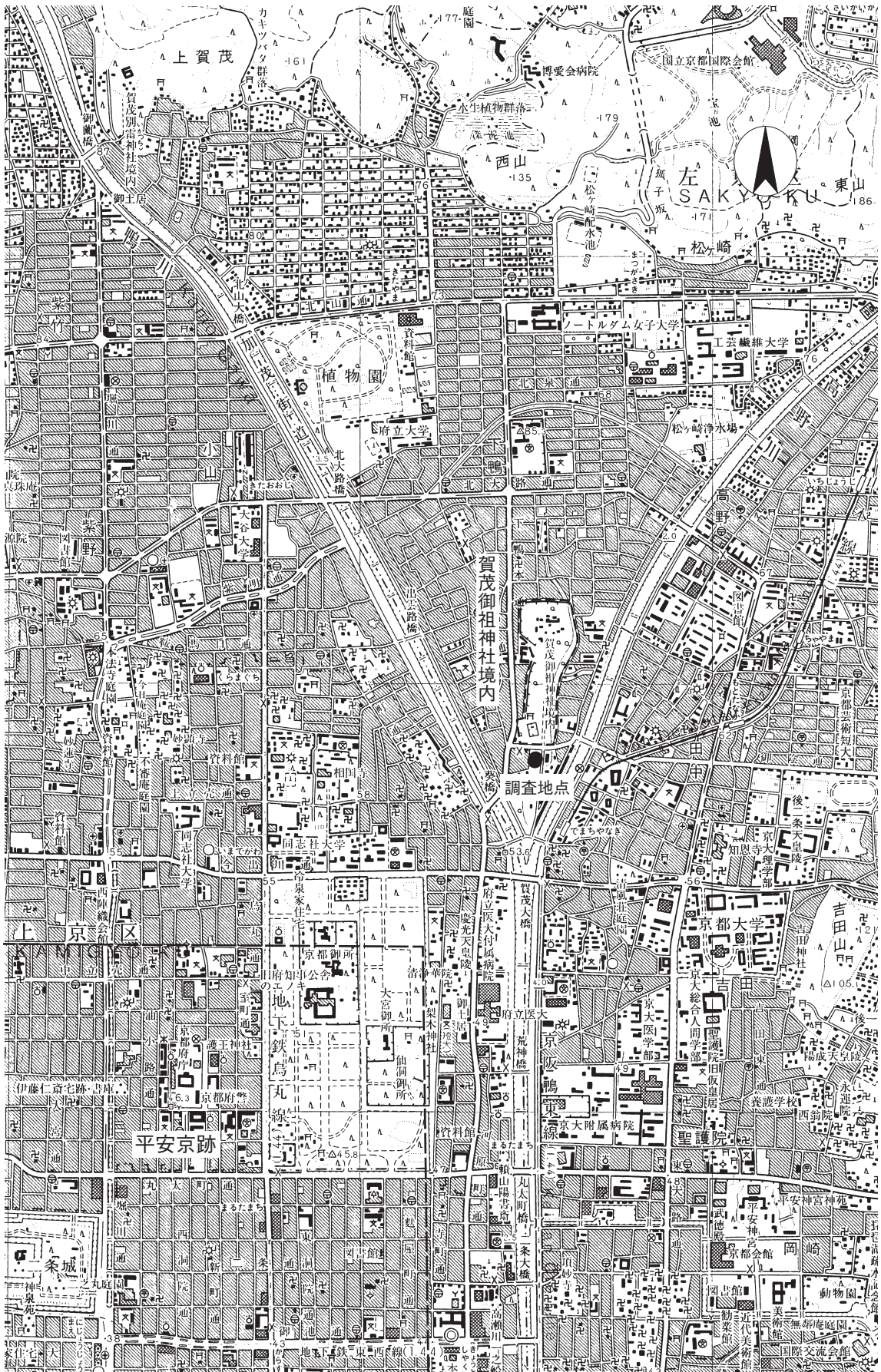


図1 調査地点位置図 (1/25,000)

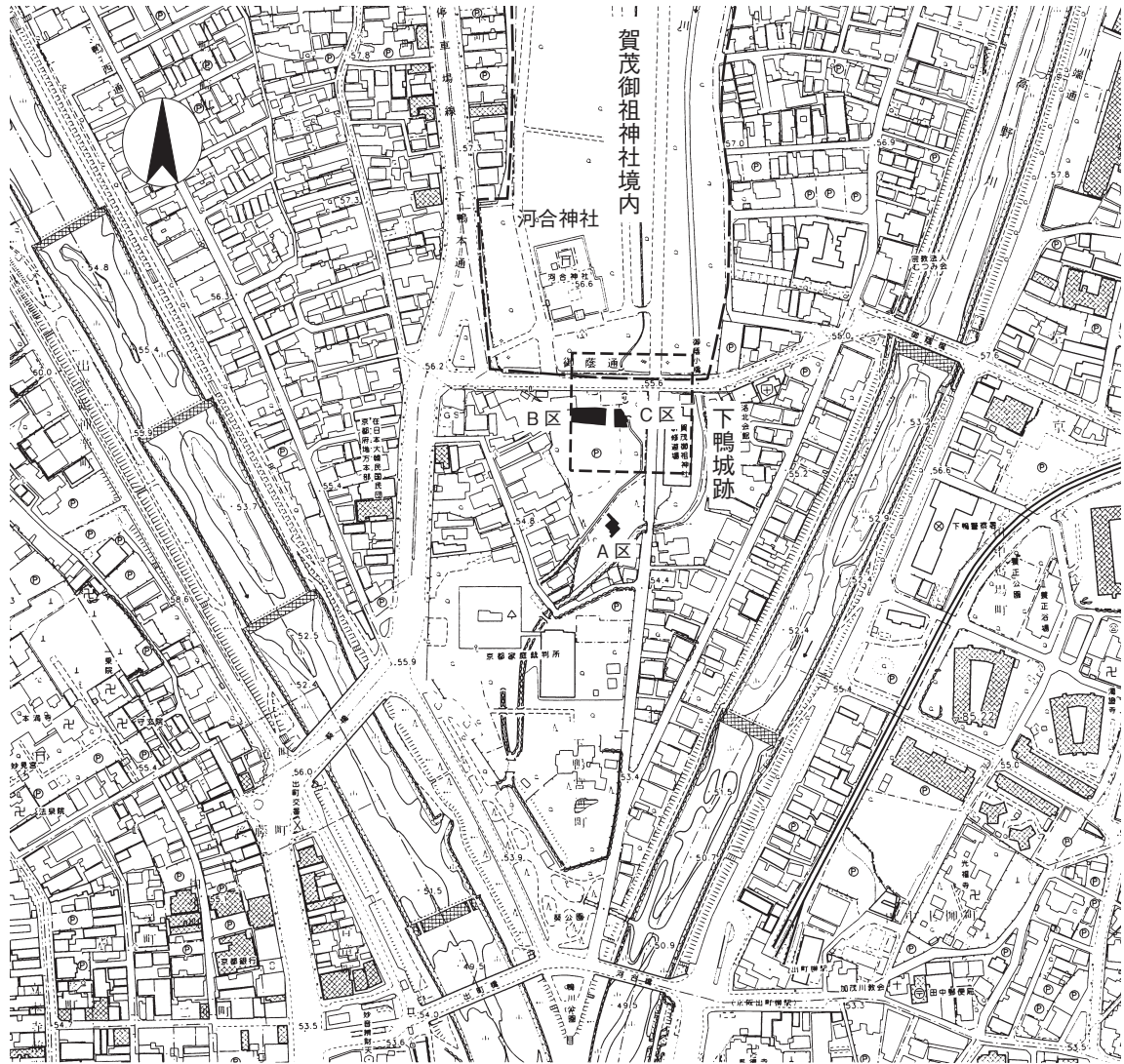


図2 調査地位置図 (1/5,000)

安京の復原モデル60を平安京外にそのまま広げて使用し、調査区の北東角を原点 (X=-107,148 m、Y=-20,722m) とする、東西方向にアラビア数字を南北方向にアルファベットを記号として付し、4 mメッシュのグリッドを基本とする遺構遺物の記録をとる方法をおこなった。

Ⅱ 遺 構

A調査区

調査区の周辺にある木々5本を移植保存するために各木の根の広がりを根本より3m程確保し、調査区を設定し直した。その結果、調査面積は80.8m²に減じた。

基本層序は地表下0.4mまで近・現代の盛土があり、以下において溝、土壙跡などを検出した。

溝5 A・B (図版2・3・9・10)

調査区の南東部に位置する。いずれも北東から南西方向に流れる溝である。

溝5 Bは幅5m以上、深さ1.4mを測る。礫砂層とシルト層が互層となっている。溝内より江戸時代の土器類が出土している。溝5 Bの底の標高53.0mを測る。

溝5 Aは溝5 Bの造り直しとみられる。溝5 Aは幅3m、深さ1.0m程を測る。シルト層が0.4mの厚さで堆積する。溝内より煉瓦などが出土しており、近代以降に埋められたものと判明した。溝底の標高は53.6mを測る。これらの溝は江戸時代末期の「旧大絵図」^{註3}に記載されている泉川の支流とみられる。

溝6 (図版2・3・11)

調査区の西辺部に位置する。北東から南西方向に流れる溝である。東肩部のみ検出したため、

拡張区を設定し溝幅を確認した。溝幅1.8m、深さ0.55mのU字形のゆるやかな掘形をもつ。堆積土は4層ほどに分層できるが、下層はシルトに近い砂泥層である。溝内より江戸時代中期の土師器皿が出土している。この溝の西側6m離れたところに現在の「瀬見の小川」が平行して流れており、溝6は江戸時代の「瀬見の小川」の流路である可能性が高い。溝底の標高は53.6mを測る。

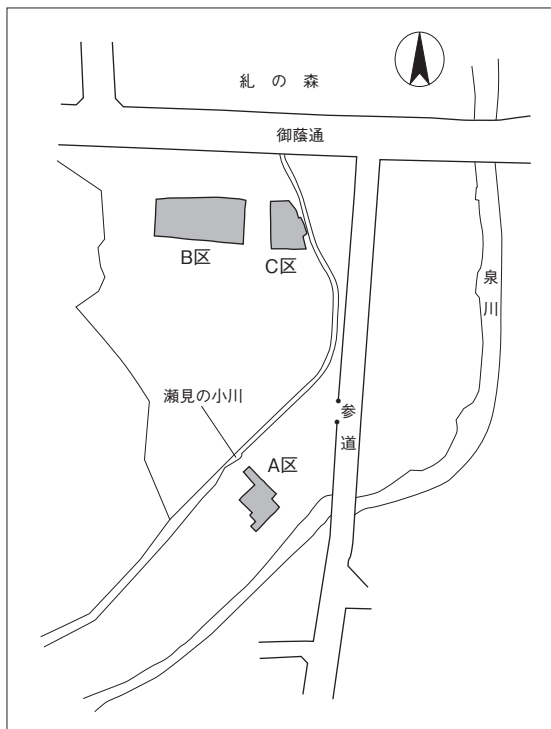


図3 調査区配置図 (1/2,000)

土壙1～3・7 (図版2・9)

いずれも近・現代の攪乱坑である。土壙3よりガラス、モルタル等と共に錫杖の頭部が一点出土している。

B 調査区

ゴルフ練習場の建物基礎により地表下1mベースの砂礫層まで削平を受けている。この砂礫層上面には平安時代中期の土師器皿小片が散在する。砂礫層は流れ堆積層で古墳時代の遺物を包含する。調査区の東部は緩やかに東に向かって地形が下がる。東端部で0.6m程の落差があり、その部分を埋めてコンクリート土間を築いている。その地形が下がる部分は0.05~0.1mの厚さで平安時代後期の遺物を含む整地層が広範囲に認められた。検出した遺構は、平安時代の井戸1基の他はすべて近・現代の攪乱坑である。

井戸31 (図4・図版4・12の2・13の2~15)

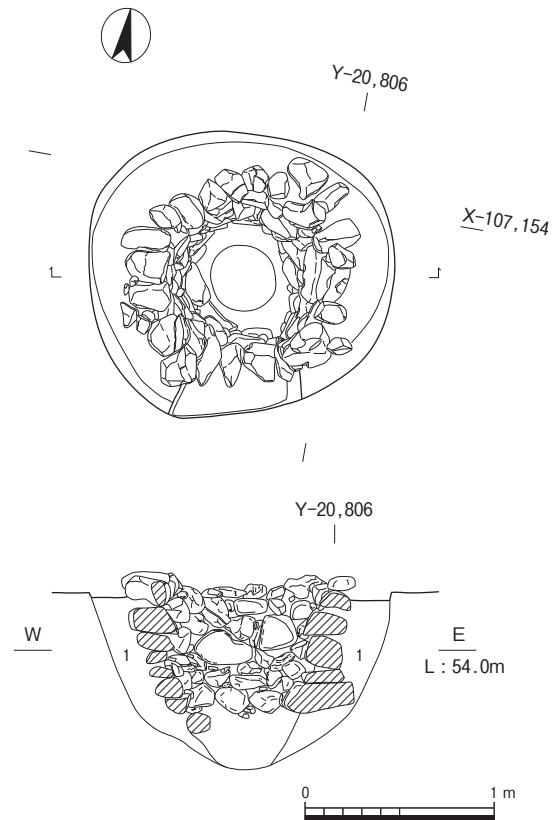
調査区の西部に位置する。石組井戸である。0.15~0.3mの川原石を円形に積む。井筒は上方に向かって開いた構造をもつ。上部は内径0.8m、下部は内径0.5mを測る。検出面より井戸底は1.05mを測る。井戸の掘形は径1.4~1.6mを測る。井戸底は素掘りのままである。底にはほとんど腐植土層はなかったが、地下水による還元層が認められた。井戸は井筒と同様な多量の礫で埋める。その礫に混じって平安時代後期の土師器皿が多く出土した。また井戸上面において白色の基石一点が出土している。井戸底の標高は53.36mを測る。

C 調査区

調査区の現表面は北端と南端部では0.3mの落差があり、北が低い。地表下1.2~1.6mで旧地表面が現出する。標高は53.7mで、B区東端部とほぼ等しい。旧地表面はゴルフ練習場建築時に埋められ、B区の地表面に合わせて盛土したものである。旧地表面において溝跡、集石遺構などを検出した。34~37はコンクリート基礎、土間、攪乱坑で、すべて現代のものである。

溝38 (図版6・7・16・17の1・18)

調査区東半部に全域に位置する。北北西から南南東に流れる溝である。両岸に自然石で護岸する。内径3mを測る。護岸石は一抱えもあり、一段で構成し、各石の目地はモルタル漆喰で防水をかねて築成する。東岸の石はいずれも立てた状況を呈し、西側からの景色を意識した造りとな



1 10YR4/2灰黄褐色砂泥 (φ3-15cmの礫多量混)

図4 B区井戸31実測図 (1/40)

っている。護岸石の掘形からはプラスチック、フィルムの切れ端など近代以降のものが出土している。護岸石に伴う溝の堆積層は0.1m程あり、近・現代の遺物を含む。その下層は0.2mの堆積土があり、この土層からは平安時代から江戸時代の遺物が出土している。この下層に伴う西肩部は護岸石の掘形と重なる。それ以下は氾濫砂礫層で、古墳時代の遺物を包含する。

集石遺構39・40（図版6・16・17・18の1）

溝38の西岸近く0.5～1.0m離れたところに位置する。溝38の西側の旧地表面は路面状を呈し、39・40は南北に2m離れて並ぶ。39は径0.6～0.65m、深さ0.3mの掘形をもち、拳大から径15cm大の川原石を充填する。一部路面より上に積んだ石が残存する。40は径0.7m、深さ0.2mの掘形をもち、同じく拳大から径20cm程の川原石を充填する。39・40ともに掘形内の北西隅に1カ所杭の痕跡が残る。39からは銅製の匙が1個体、40からは平瓦小片が1点出土したのみである。

焼土・炭層41（図版6・16の2・17の1・18の1）

集石遺構40の西南部に炭混じりの焼土が1.5～2.0mの不定型な広がりで見認められた。地面が焼けた状況を呈しており、何らかのものを燃やした痕跡とみられる。

Ⅲ 遺 物

出土遺物には古墳時代から近・現代のものがある。古墳時代のものは、ベースの砂礫層より出土したものでいずれも摩耗している。平安時代のもはB調査区の井戸より出土したものおよび包含層などより出土したものがあるが量は少ない。中世のものはほとんどない。近世のものはA調査区の溝から出土したものが多くを占める。遺物の種類には、土師器、須恵器、黒色土器、灰釉陶器、国産陶磁器、金属製品、土製品、銭貨、瓦類などがある。なお、時代区分は平安京の土器編年^{註4}に準じた。

A区溝5B出土遺物 (図5・9・図版19・20)

土師器、染付、陶器、瓦などがある。土師器皿Nr(1)は口径4.5cmを測る。2は土師質陶器鉢の高台部である。高台径8.5cm、高さ1.7cmを測る。内面底部は二次焼成を受けて黒化している。胎土は長石粒を含み、橙色を呈する。3・4は伊万里系染付碗。5は土師質陶器の羽釜。鏢の部分に磨滅している。胎土は白色微砂粒、長石粒を多く含み、にぶい橙色を呈する。内面は焦げて黒化している。25は剣頭文軒平瓦である。半折曲げ技法である。全体に摩耗している。胎土は白色微砂粒を多く含む。

溝5B

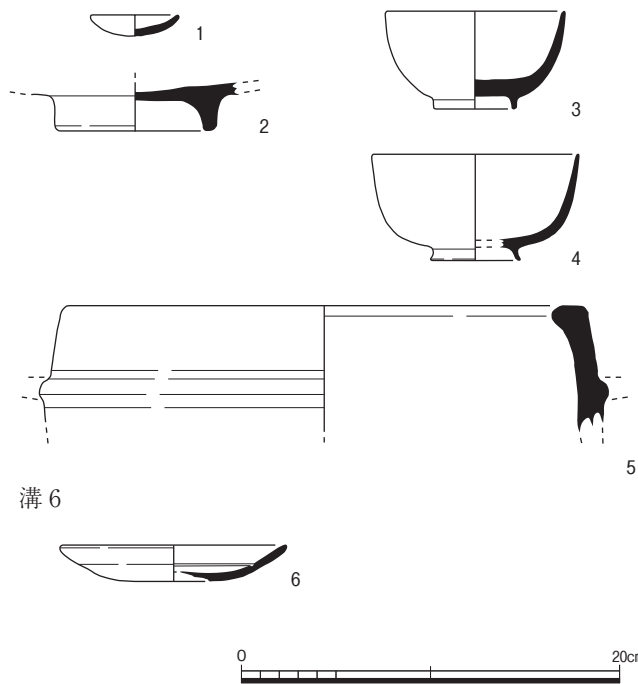


図5 A区溝5B・6出土遺物実測図(1/40)

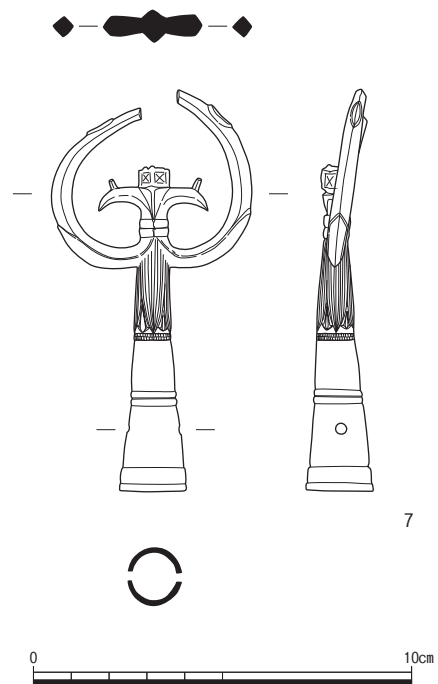
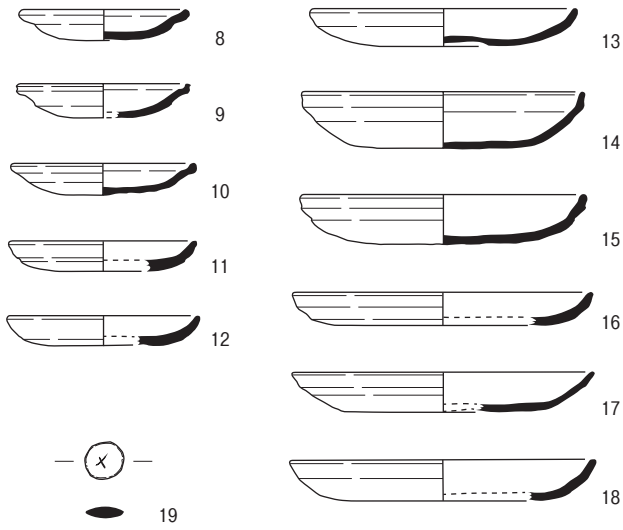
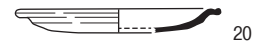


図6 A区土壙3出土遺物実測図(1/2)

井戸31



包含層



包含層

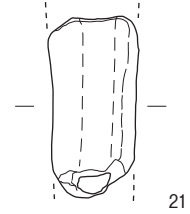


图7 B区井戸31・包含層出土遺物実測図(1/4)

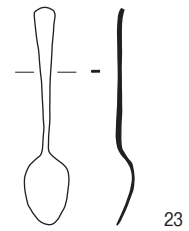
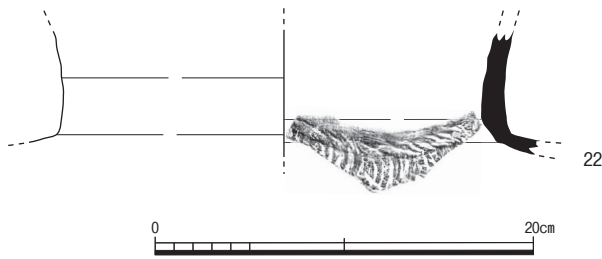


图8 C区溝38・集石遺構39出土遺物実測図(1/4)

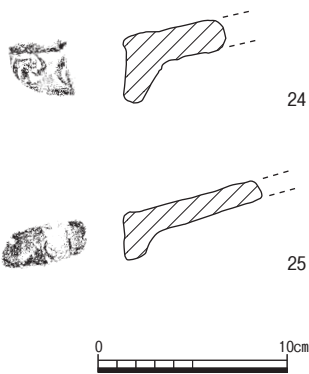


图9 軒瓦拓影・実測図(1/4)

A区溝6出土遺物（図5・図版19）

6は皿Sである。口径11.8cm、器高1.9cmを測る。内面底部と体部の境界に一条の凹線が巡る。内外面煤が付着する。

A区土壙3出土遺物（図6・図版19）

7は錫杖の頭部分である。青銅製である。残存高10.7cmを測る。環状部が割れている。

B区井戸31出土遺物（図7・図版20）

土師器皿には皿A（8～10）、皿N（11～18）がある。皿Aは口径8～9cm台、器高1.5～1.8cmを測る。10は完形品である。皿Nには大（13～18）小（11、12）がある。11・12は口径9.8～10.0cm、器高1.6cmを測る。13～18は口径14～16cm台、器高2.3～3.0cmを測る。11世紀末から12世紀前半のV期古に属する。

B区包含層出土遺物（図7・9・図版20）

土師器皿A（20）はベースの砂礫上面で検出した。口径10.6cm、器高1.3cm程を測り、Ⅲ期の10世紀代のものである。21は土錘である。東部の平安時代の包含層より出土。残存長9.6cm、幅4.4cm前後、孔の径1.6cmを測る。一端を欠く。胎土は白色微砂粒、クサリ礫を含み、橙色を呈する。19は白色の碁石である。井戸31上面より出土。径2.0cm、厚さ0.6cmを測る。貝製。24は唐草文軒平瓦である。折曲げ技法。胎土は白色微砂粒を含み、焼成は甘い。平安時代の整地層3出土。

C区溝38第2層出土土器（図8）

22は須恵器甕の頸部片である。頸部内面に曲げ皺が認められる。体部内面は青海波文が明瞭に残る。胎土は白色微砂粒を多く含み、灰白色を呈する。全体に摩耗している。

C区集石遺構39出土遺物（図8・図版20）

23は銅製のスプーンである。全長11.5cmを測る。全体に緑青が吹いている。

IV まとめ

今回の調査で検出した主要な遺構としては、A区では「泉川」の旧流路及び「瀬見の小川」、B区では平安時代の石組井戸1基と東に傾斜する平安時代の旧地表面、C区では護岸石をもつ「瀬見の小川」と集石遺構などがある。ここでは各調査区ごとに以下述べる。

A調査区

A区においては、北東から南東方向の流れをもつ溝5A及び溝5Bの二条の溝と拡張区において同方向の流れをもつ溝6を検出した。溝5Aは幅3m、深さ1.0mで溝の堆積土には江戸時代後半以降の染付を包含し、溝を埋めた埋土には煉瓦やコンクリートなどが混じり、近代になって埋められたことが確認できた。溝5Bは幅5m以上あり、溝内より江戸時代前期以降の土器類が出土している。溝5Aは溝5Bの作り替えと考えられる。この両溝は、賀茂御祖（下鴨）神社が所蔵する江戸時代末期の「旧大絵図」^{註5}（図版1）に描かれている泉川の分流の一つとみられる。「旧大絵図」の泉川は下鴨神社の参道を西側に屈曲して横断したのち二手に分流して描かれている。今回の調査地A区は参道のすぐ西側で現在の泉川の右岸に沿って設定したところで、現在ある泉川の流路と今回検出した溝の位置関係より、溝5Aは分流地点の北側の水路に相当するものとみられる。また「寛文古図」と称されている「下賀茂境内之絵図」^{註6}では「瀬見の小川」と合流した泉川はそのまま南流して高野川に注いでいるように描かれており、また延享5年（1748）の「下賀茂境内川除場所絵図」^{註7}においても同様に描かれていることなどから、今回検出した泉川の分流とみられる溝5Bは延享5年以降に開鑿されたものとみることができる。

次に調査区の西辺部で検出した溝6は幅1.8m程で、北東から南西方向の流れをもつ溝である。溝6の堆積土からは江戸時代中期の遺物が出土している。この溝の西側に平行して戦後に水路として整備された現在の「瀬見の小川」が流れている。「旧大絵図」では泉川の分流した北側水路の北に平行して「瀬見の小川」が描かれており、溝6は江戸時代の「瀬見の小川」である可能性が高いといえる。

B調査区

B区は駐車場の北西部に位置する。現在ある駐車場は、ゴルフ練習場があったところで、当時の建設工事に伴い地表下1m前後まで広範囲にわたって削平されていることが判明した。調査において検出した遺構は、平安時代後期の井戸1基のみである。駐車場の旧地形は東側参道方面に向かって緩やかに下がる地形であることが明らかになり、斜面においては平安時代後期の遺物を含む整地層が5～10cmの厚さで残存していることを確認した。平安時代の石組井戸31は検出面より1m程の深さで残存し、上部の削平分を除いても浅い。井筒の石組は上方にひらく形態を有し、このような形態の井戸は平安時代後期の石組井戸の特徴とされ、武徳殿の調査^{註8}にその類例がある。

また、平安京左京六条四坊十六町（崇親院）跡の調査^{註9}においても同様に上方がひらく石組井戸を検出している。この崇親院跡の石組井戸は他の同時期の井戸底より1m程浅く作られており、日常生活用水の井戸としては機能しないと考えられる。武徳殿及び崇親院跡の井戸はいずれも同じ12世紀代のもので、今回検出した井戸31も12世紀前半代のものである。井戸31は井戸底に深さ0.2~0.3mの湧水層の痕跡が認められ、これはC区で検出した「瀬見の小川」の水面とほぼ等しい。ただ井戸31の湧水層の深さから考えて日常的に生活用水としてもち得る井戸としてはこれも機能的に無理があるように思える。2008年におこなわれた史跡賀茂御祖神社境内の「船島」の調査^{註10}で検出した江戸時代後期の石組井戸が、『烏邑縣纂書』舟ヶ嶋の項に「楼門の外 御手洗川ノ際ナリ 旱魃ノ時土民此井ヲ撥テ雨ヲ祈る也」と記載されている井戸と推定され、石組井戸で雨乞いの神事をおこなったと考えられている。この「船島」の井戸は、江戸時代後期に作り替えがおこなわれており、しかも井戸底を浚うことなく新しく石組を構築したと報告されており、そのことから井戸本来の取水目的の井戸ではないと推察されている。今回の井戸31は多数の土師器皿片混じりの川原石で埋められており、井戸上面より白色の碁石が一点出土していることなどからあるいは雨乞いなどの神事をおこなうために特別に作られた石組井戸または浅掘の井戸跡である可能性がある。またこの井戸の底石が2個体内側に突出しており、何らかの機能を持たせるものとも考えられる。この石組井戸31は河合神社の中門より真南約66m離れたところに位置し、河合神社境内域に属する。

C調査区

地表下1mにおいて調査区全体を縦断する護岸施設をもつ南東方向の溝38を検出した。溝38は現在ある「瀬見の小川」の水路のすぐそばにあり、ゴルフ場の建設に伴い埋められたものと判明

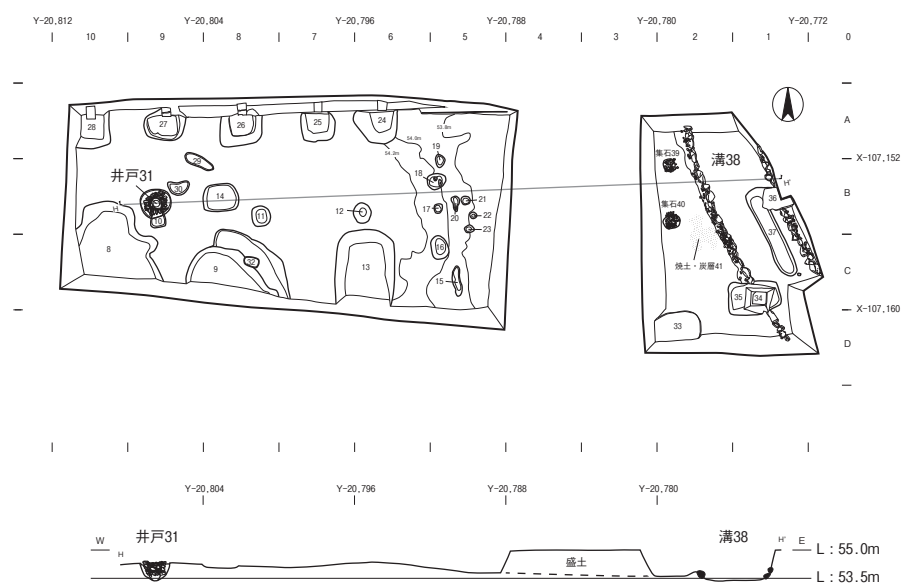


図10 井戸31と溝38の縦断面図 (1/400)

した。東岸の石組はいずれも立てた状態で据えており、西方からの眺望を意識した景石風となっている。おそらく西側に建物があり、溝38は庭園の一部として取り込まれていたものと考えられる。溝38の堆積土は2層に分層でき、上層はガラスなど現代の遺物を含み、下層は須恵器、施釉陶器などを包含する。また護岸石の掘形にはカメラのフィルムの切れ端やガラスを含む。昭和5年から昭和7年発行の地形図を元に作られた昭和13年に発行された「京都都市計画図」には「瀬見の小川」は描かれておらず、今回検出した溝38は昭和10年の高野川と泉川が決壊・氾濫し、札の森が水没するなどした大水害の後に、神社職員の宿舎などのもとに修復し作り直された「瀬見の小川」と考えられる。また溝38は下層の出土遺物が平安時代に遡るものであることから、この溝38は平安時代以降の「瀬見の小川」を踏襲している可能性も考えられる。

溝38の西側は路面上の平坦な地面を構成しており、その平坦面において2カ所の集石遺構39・40を検出した。いずれの集石も杭跡の痕跡が認められ、棒状のものを立てた可能性がある。集石遺構39から銅製の匙が一点出土したのみでいずれの集石遺構からも顕著な遺物は出土しなかった。ただ、集石遺構40の近くに炭混じりの焼土面が認められたが、出土遺物もなく、関係性は不明である。

以上今回の調査においては、河合神社境内の社域に築かれたとする河合城（下鴨城）跡の遺構は検出することができなかった。また室町時代の遺物も皆無であった。河合神社の南部に位置するB区の調査において、旧地形は参道のある泉川方面に向かって緩やかに下っていくことが判明し、従来の河合城跡の推定範囲が泉川を東限とする80m四方程の広さで考えられているが、城郭が東に下がる斜面に立地することにはかなり無理がある。実際、現地形もB区より西に向かって高くなっており、現在の推定地より西側、河合神社の南西方面に河合城が築かれた可能性を考えることができようか。

今ひとつ今回の調査で特筆すべき遺構としてはB区の石組井戸31がある。すでに述べてきたようにこの井戸は生活用水としての井戸ではなく、何らかの神事に伴い構築された可能性がある。井戸の位置が河合神社の中門の真南に位置する境内域につくられていることからその可能性は高い。井戸31の石組内から出土した土器群は平安京土器編年のV期古に属し、1080年代から1110年代のおよその実年代が与えられている。その頃の河合社の出来事のひとつとして、「賀茂御祖神社編年略譜」によれば、天永3年（1112）10月「河合社廻廊、中門、読経所焼失。貴布禰社に奉遷される。」（『殿暦』『中右記』）とあり、同年の11月には再建されたと記されている。井戸31においてどのような祭祀がおこなわれたかは不明なものの、「雨乞い」、「禊ぎ」、「祓」などの神事がおこなわれた可能性も考えられ、その実態については今後の検討課題としたい。

- 註1 a) 山下正男『京都市内およびその近辺の中世城郭—復原図と関連資料—』京都大学人文科学研究所 1986年。
- b) 新木直人「糺の森の神々—撰末社」(『賀茂御祖神社—下鴨神社のすべて—』賀茂御祖神社 2015年)によると「京の七口の一所であり、鴨川、高野川の合流する要所のため社域に河合城(下鴨城)が築かれた」と述べられている。ここで言う社域は河合神社(鴨河合坐小社宅神社)を指している。
- 註2 註1 a)と同じ。
- 註3 「旧大絵図」『鴨社古絵図展』(財)糺の森顕彰会 1985年。
- 註4 小森俊寛・上村憲章「京都の都市遺跡から出土する土器の編年的研究」『研究紀要 第3号』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1996年。
- 註5 註3と同じ。
- 註6 註3と同じ。
- 註7 註3と同じ。鴨社神宮寺についての初見が寛仁元年(1017)(『小右記』)であることからこの絵図が描かれているのは平安時代の御祖社社頭図と考えられている。
- 註8 辻裕司・丸川義広「尊勝寺跡」『昭和57年度京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1984年。
- 註9 拙著『崇親院跡—平安京左京六条四坊十六町—』古代文化調査会 2015年。
- 註10 平尾政幸『史跡賀茂御祖神社境内(2007-19)』(財)京都市埋蔵文化財研究所 2008年。
- 註11 「賀茂御祖神社編年略譜」(註1 b)と同じ。

報告書抄録

ふりがな	しもがもじょうあと
書名	下鴨城跡
副書名	河合神社境内
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	家崎孝治
編集機関	古代文化調査会
所在地	〒658-0032 神戸市東灘区向洋町中1丁目4番地125-1404
発行年月日	2016年3月31日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	市町村コード	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
しもがもじょうあと 下鴨城跡	きょうとしさきょうく 京都市左京区 しもがもいずみかわちょう 下鴨泉川町 ほん 60番	26100	394	35度 20分 16秒	135度 46分 19秒	2015.08.03 ～ 2015.10.13	519.07㎡	マンション建設

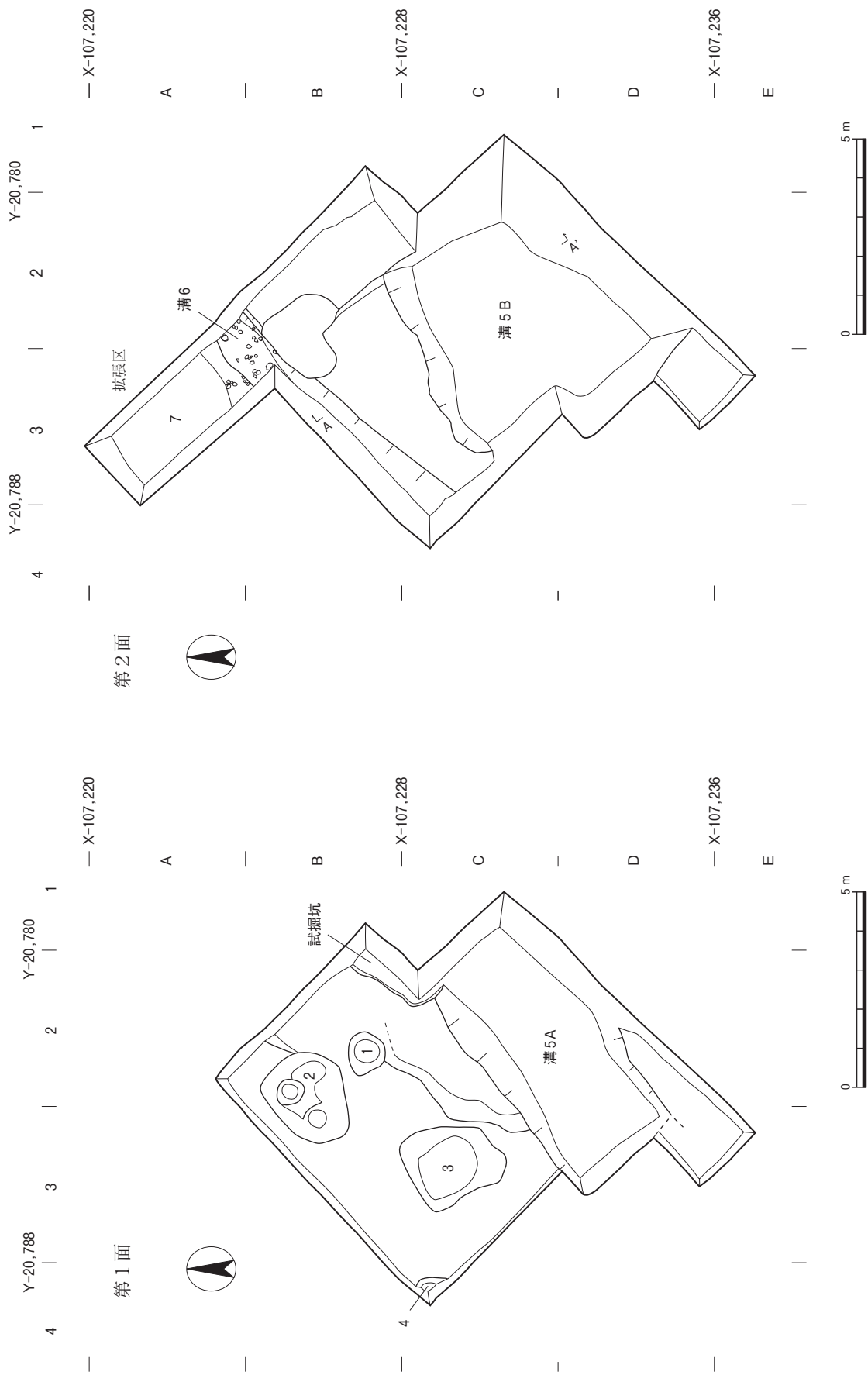
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
下鴨城跡	城館跡	室町時代	溝、井戸、集石遺構	土師器、国産陶磁器、 金属製品、瓦類	平安時代の石 組井戸、瀬見 の小川

	Aランク点数 (箱数)	内 訳	Bランク (箱数)	Cランク (箱数)	出土箱数 合計
点数及び 箱数	25点 (2箱)	土師器14点、須恵器1点、染付2点、 陶器2点、土錘1点、軒瓦2点、金属 製品2点、基石1点	7箱	0	9箱

图 版

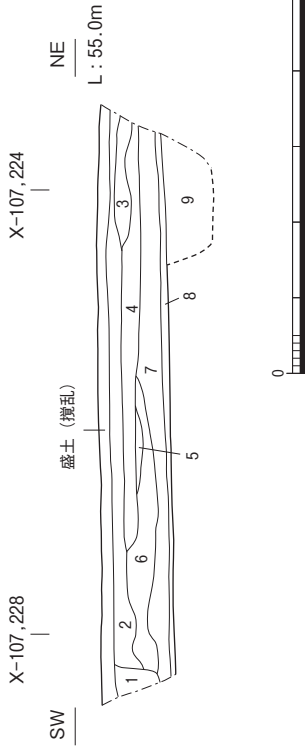


「旧大絵図」(註3)



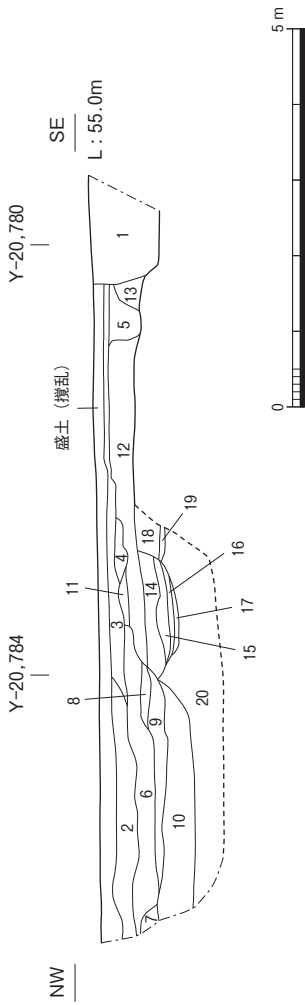
A区遺構実測図 (1/150)

西壁



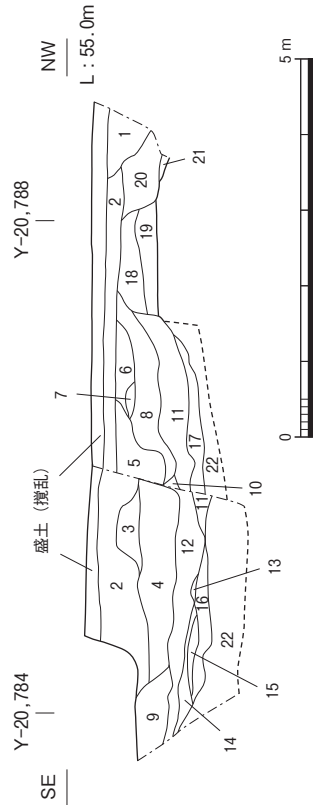
- 1 10YR2/3黒褐色泥砂 (炭少量・φ~10cmの礫中量混)
- 2 10YR3/4暗褐色砂泥 (φ1~3cmの礫少量混)
- 3 10YR3/4暗褐色砂泥 (φ1~3cmの礫少量混)
- 4 10YR3/3暗褐色砂泥 (φ1~5cmの礫少量混)
- 5 10YR4/3にぶい黄褐色細砂
- 6 10YR5/3~4/3にぶい黄褐色粗砂~細砂 (φ~5cmの礫少量混)
- 7 10YR4/4褐色細砂~微砂
- 8 10YR4/3にぶい黄褐色 + 10YR4/2灰黄褐色細砂~微砂 (φ~5cmの礫少量混)
- 9 10YR3/2黒褐色粗砂 (φ1~10cmの礫多量混) (ベース)

北壁



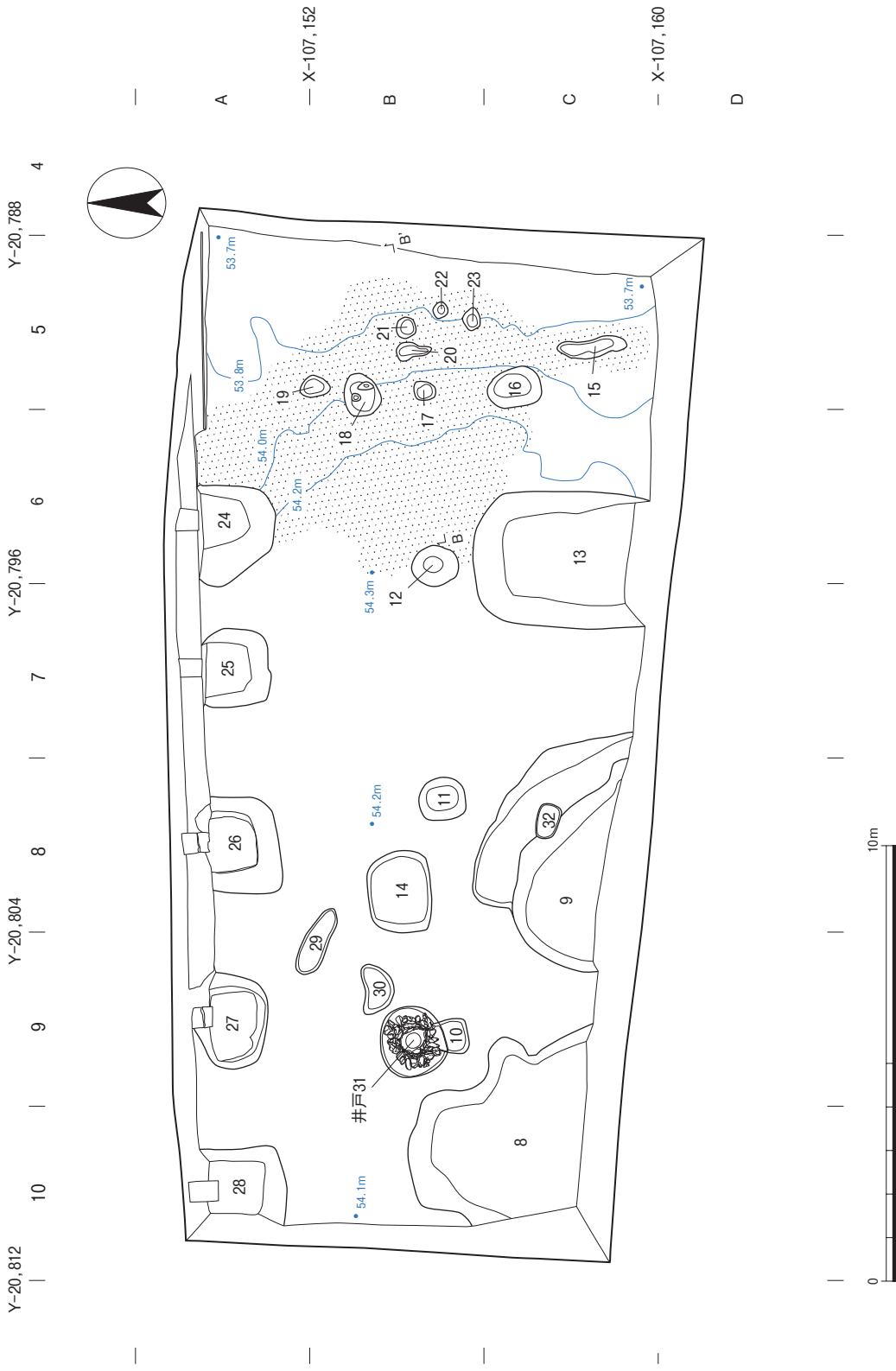
- 1 10YR2/3黒褐色砂泥 (φ1~12cmの礫少量混)
- 2 10YR2/3黒褐色砂泥 (φ1~12cmの礫中量混)
- 3 10YR3/3暗褐色砂泥 (φ1~10cmの礫中量混)
- 4 10YR3/4暗褐色砂泥 (φ1~3cmの礫少量混)
- 5 10YR4/2灰黄褐色砂礫 (瓦少量・φ1~10cmの礫少量混)
- 6 10YR5/3にぶい黄褐色砂泥 (φ1~2cmの礫少量混)
- 7 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥 (φ1~3cmの礫少量混)
- 8 10YR5/4にぶい黄褐色砂泥 (φ1~3cmの礫少量混)
- 9 10YR5/4にぶい黄褐色砂泥 (φ1~8cmの礫中量混)
- 10 10YR4/3にぶい黄褐色砂礫 (φ1~12cmの礫多量混)
- 11 10YR3/2黒褐色砂泥 (φ1~3cmの礫少量混)
- 12 10YR3/3暗褐色砂泥 (φ1~5cmの礫少量混)
- 13 10YR3/3暗褐色砂泥 (炭微量・φ1~2cmの礫少量混)
- 14 10YR4/4褐色砂泥 (φ1~4cmの礫少量混)
- 15 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥 (φ1~10cmの礫少量混)
- 16 25Y4/3オリーブ褐色砂泥 (φ1~5cmの礫少量混)
- 17 25Y3/3暗オリーブ褐色砂泥 (φ1~10cmの礫中量混)
- 18 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥 (φ1~5cmの礫多量混)
- 19 10YR5/2灰黄褐色細砂 (φ1~3cmの礫少量混)
- 20 10YR3/2黒褐色粗砂 (φ1~10cmの礫多量混) (ベース)

南壁



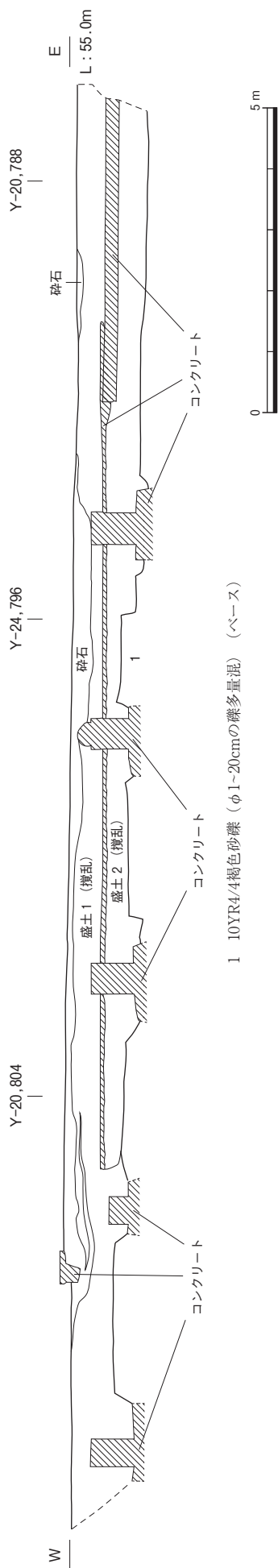
- 1 10YR2/3黒褐色泥砂 (炭少量・φ~10cmの礫中量混)
- 2 10YR3/4暗褐色砂泥 (φ1~3cmの礫少量混)
- 3 10YR4/3にぶい黄褐色シルト (φ1~4cmの礫少量混)
- 4 10YR5/1褐色シルト (φ1~4cmの礫少量混)
- 5 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥 (φ1~15cmの礫多量混)
- 6 10YR4/2灰黄褐色砂泥 (φ1~5cmの礫多量混)
- 7 10YR4/4褐色シルト
- 8 10YR4/4褐色細砂 (φ1~20cmの礫多量混)
- 9 7.5YR3/4暗褐色砂礫 (φ1~25cmの礫多量混)
- 10 10YR4/4褐色砂礫 (φ1~12cmの礫中量混)
- 11 25Y4/2暗灰黄色シルト
- 12 10YR3/2黒褐色粗砂 (φ1~8cmの礫多量混)
- 13 7.5YR3/4暗褐色粗砂
- 14 7.5YR4/4褐色粗砂
- 15 10YR4/3にぶい黄褐色細砂 (φ1~3cmの礫少量混)
- 16 2.5Y3/3暗オリーブ褐色粗砂 (φ0.2~20cmの礫多量混)
- 17 2.5Y4/3オリーブ褐色粗砂 (φ3~10cmの礫多量混)
- 18 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥 + 10YR4/4褐色粗砂 (φ1~3cmの礫少量混)
- 19 10YR4/4褐色細砂 (φ0.5~10cmの礫多量混)
- 20 10YR4/4褐色細砂~微砂
- 21 10YR4/3にぶい黄褐色 + 10YR4/2灰黄褐色細砂~微砂 (φ~5cmの礫少量混)
- 22 10YR4/2灰黄褐色砂礫 (ベース)

A区北壁・西壁・南壁断面実測図 (1/100)



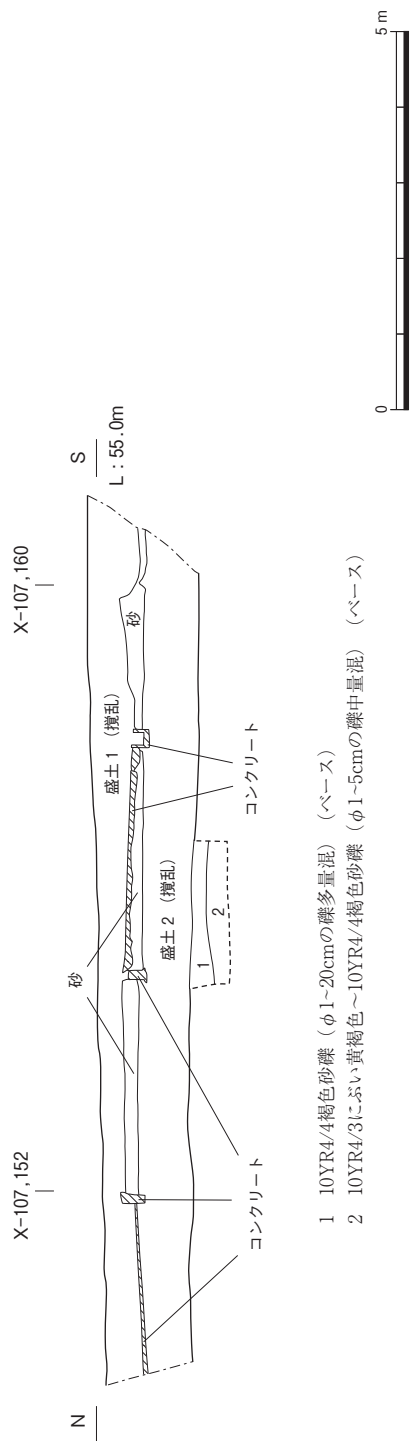
B区遺構実測図 (1/150)

北壁



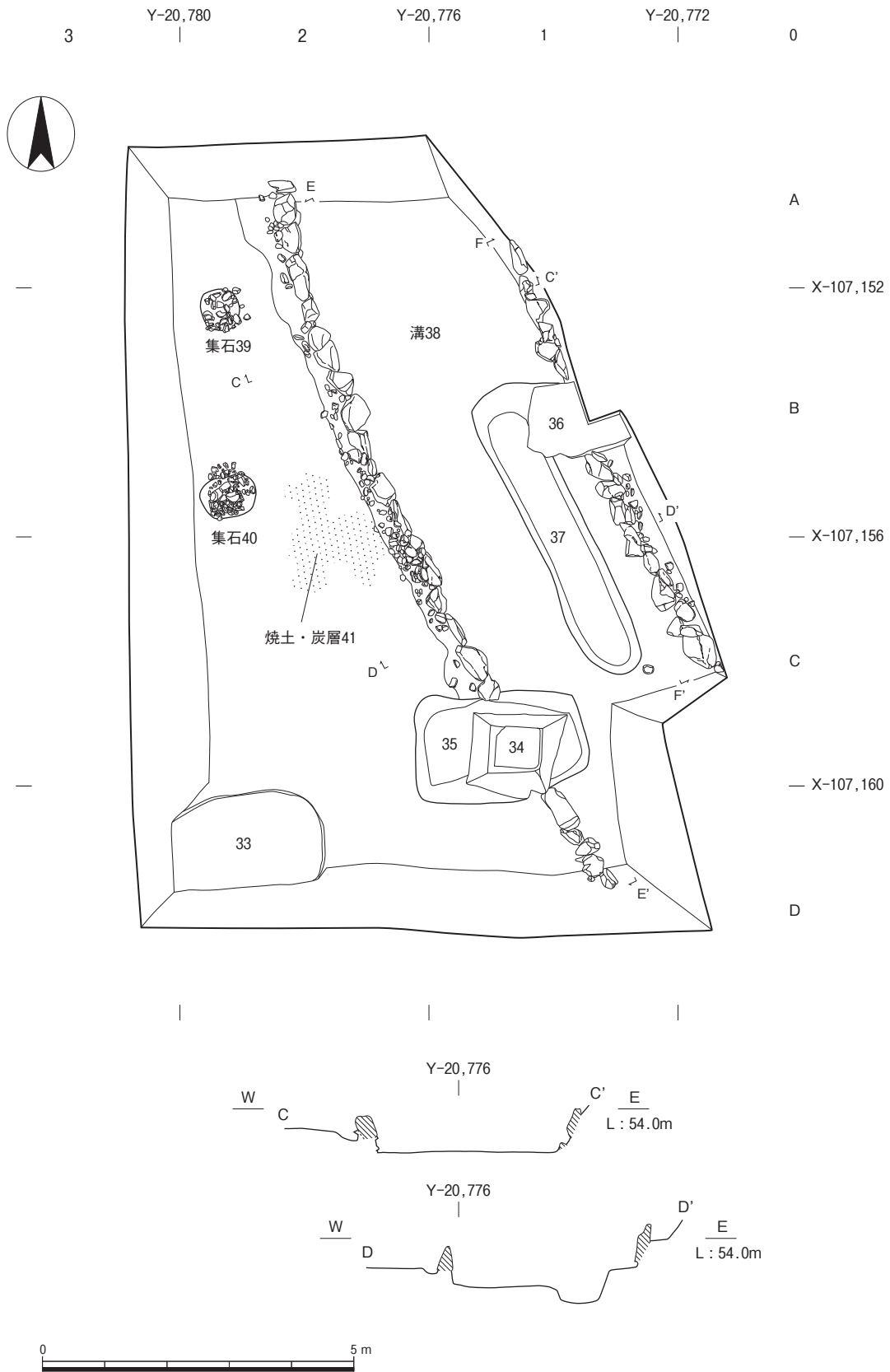
1 10YR4/4褐色砂礫 (φ1~20cmの礫多量混) (ベース)

東壁



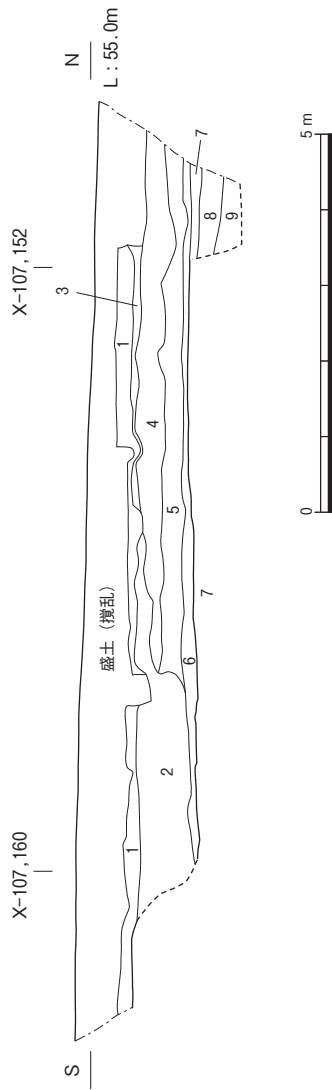
- 1 10YR4/4褐色砂礫 (φ1~20cmの礫多量混) (ベース)
- 2 10YR4/3にぶい黄褐色~10YR4/4褐色砂礫 (φ1~5cmの礫中量混) (ベース)

B区北壁・南壁断面実測図 (1/100)



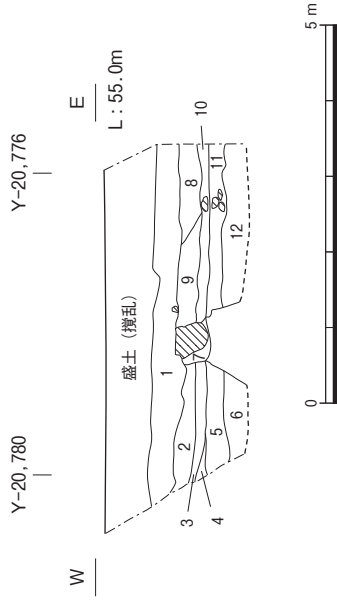
C区遺構実測図 (1/100)

西壁



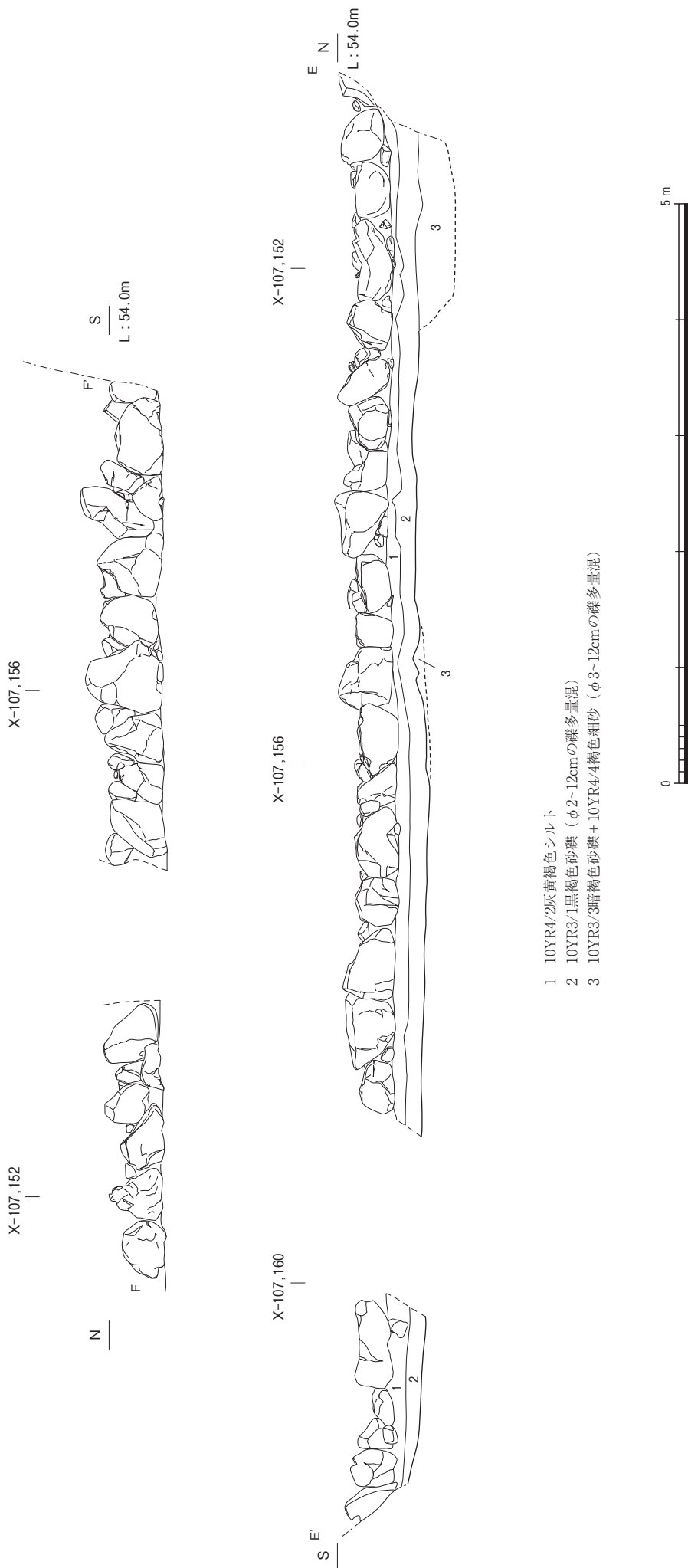
- 1 25Y6/6明黄褐色粗砂—細砂
- 2 10YR3/2黑褐色砂泥 (φ~10cmの礫中量混)
- 3 10YR4/2灰黄褐色泥砂 (φ~2cmの礫少量混)
- 4 10YR4/3にふい黄褐色砂泥 (φ~3cmの礫少量混)
- 5 10YR4/4褐色砂泥 (φ~10cmの礫中量混)
- 6 25Y4/3オリーブ褐色シルト (炭・焼土少量混)
- 7 10YR3/2黑褐色粗砂 (φ2-5cmの礫多量混)
- 8 10YR4/3にふい黄褐色砂泥 (φ3-15cmの礫多量混)
- 9 10YR3/2黑褐色砂泥 (φ3-15cmの礫多量混)

北壁



- 1 10YR4/3にふい黄褐色砂泥 (φ~3cmの礫少量混)
- 2 10YR4/4褐色砂泥やや砂混じり (φ~10cmの礫中量混)
- 3 25Y4/3オリーブ褐色シルト (炭・焼土少量混)
- 4 10YR3/2黑褐色粗砂 (φ2-5cmの礫多量混)
- 5 10YR4/3にふい黄褐色砂泥 (φ3-15cmの礫多量混)
- 6 10YR3/2黑褐色砂泥 (φ3-15cmの礫多量混)
- 7 10YR4/2灰黄褐色シルト
- 8 10YR6/1褐灰色シルト
- 9 10YR5/3にふい黄褐色砂泥
- 10 10YR5/2灰黄褐色砂泥
- 11 10YR3/1黑褐色砂泥 (φ2-12cmの礫多量混)
- 12 10YR3/3暗褐色砂泥
+10YR4/4褐色細砂 (φ3-12cmの礫多量混)

C区北壁・西壁断面実測図 (1/100)



C区溝38立面実測図 (1/50)



1 A区調査区近景（北東から）



2 A区第1面全景（北東から）



1 A区第2面全景（北東から）



2 A区溝5B（南から）



1 A区拡張区全景（南東から）



2 A区溝6断面（南西から）



1 B区調査地近景（南西から）



2 B区第1面全景（西から）



1 B区東部斜面状況（南から）



2 B区井戸31検出状況（南から）



1 B区井戸31 (南から)



2 B区井戸31 (東から)



1 B区井戸31断ち割り状況（南から）



2 B区井戸31完掘状況（南から）



1 C区調査地近景（南から）



2 C区第1面全景（南から）



1 C区溝38 (南東から)



2 C区集石遺構39 (西から)



4 C区集石遺構40 (西から)



3 C区集石遺構39断ち割り (東から)



5 C区集石遺構40断ち割り (東から)



1 C区拡張後全景（南から）



2 C区溝38東護岸石北部（西から）



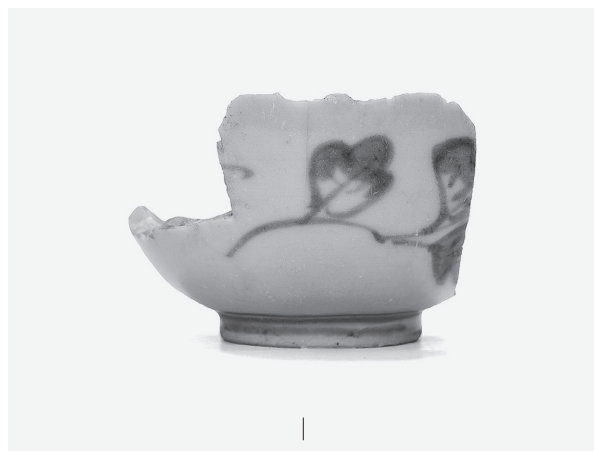
3 C区溝38東護岸石南部（西から）



4 C区溝38西護岸石裏込め状況（南西から）



5 C区溝38断ち割り北断面（南から）



A区溝5 B (2~5)・溝6 (6)・土壙3 (7) 出土遺物



B区井戸31 (8・10・12・19)・包含層 (20・21)・整地層3 (24)・C区集石遺構39 (23)・
A区溝5 B (25) 出土遺物

下鴨城跡

—河合神社境内—

発行日 2016年3月31日
編集発行 古代文化調査会
住所 〒658-0032 神戸市東灘区向洋町中1丁目4番地125-1404
TEL (078)857-6368
印刷 真陽社
〒600-8475 京都市下京区油小路仏光寺上ル
TEL (075)351-6034

